



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第172号

2007年7月10日

みなさん、こんにちは。今回は未来の学芸員さんとボランティアさんのお話です。

● 神戸学院大学図書館の「明石文博資料展」の展示替えがありました。

神戸学院大学の図書館では、学芸員の勉強をしている学生さんが文博の資料を用いて展示体験をしています。第9回神院大 明石文博資料展「全国かつば勢ぞろい展～表情豊かな河童達～」の開催に先立ち、6月30日、学生さんによる展示作業がありました。



壁面にのれんを展示しています



ひとつひとつの間隔や
向きにも気を配ります

大きな水盤を展示ケースの中央に置いたり、端に置いたり、配置を決めかねている学生さんに吉田学芸員から「ただ均等に並べるのではなく、それぞれのブロックで何を大事にするのか考えよう」とアドバイス。

夫婦河童の姿をした二つセットの徳利を、正面向きに並べるか、ひとつを背面向きに置くか悩んでいる学生さんに矢野学芸員は「つがいであることを見せたいのか、河童であることを見せたいのか、それによって向きが決められる」と助言していました。

● ボランティア研修が進んでいます。

6月16日から毎週土曜日に行われているボランティア研修。6月30日は常設展示解説グループと着付けグループの研修が、先輩ボランティアさんより行われました。着付けではボランティアさんをモデルに実際に十二単を着せながら研修がされました。着付けが終わると、携帯電話のカメラで撮影会になりました。着せる説明の後は脱がし方の説明。「小袖まで一気に脱ぐんです」という解説には驚きの歓声が沸きました。



十二単の実演研修中です

神院大の学生さんは、並べれば並べるほど展示の難しさに気づいていくようで、みんな「うーん」と考え込んでいました。みなさんなら、どのように展示してみますか？